ドライブレコーダー取扱説明書
Omniwatching HD (PAS-720HD)

＊本製品の仕様は、改良のため予告なしに変更することがあります。
＊本機で記録したデータは当社独自のビューアーソフトプログラムで
　再生、データの管理が可能になります。

◆ 安全にお使いいただくために

ご使用に関する注意事項を記載しています。必ずお守りください。

警告

運転中に本機を注視しない
走行中に表示灯などを注視しないでください。前方不注意による事故の原因になります。

運転者は走行中に操作しない
走行中の操作は、前方不注意による事故の原因になります。
必ず安全な場所に停車し、サイドブレーキを引いた状態で操作してください。
また、非常（手動）ボタンを使用したい時は、周囲の安全を十分に確認した上で、素早く操作してください。

分解・改造しない
分解や改造は危険ですのでおやめてください。火災や感電の原因になります。

本機を濡らさない
感電や故障の原因になります。
本機は防水仕様ではありませんので水滴などがかかった時は、すぐに吸収性のある柔らかい布で拭いてください。

本機に強い衝撃を故意に与えない
走行中にはずれたり、落下するなど事故や怪我の原因になります。また、他の物を破損させる恐れがあります。

異常なときは使用を中止
万一煙が出たり、変な臭いがするなど異常が起こったときは、すぐに運行を中止してください。 異常状態がおさまったことを確認したら販売店にご連絡ください。
お客様自身による修理は、危険ですのでおやめてください。
異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因になります。

◆ 安全にお使いいただくために(つづき)

安全上の注意事項

＊本機に強い力やショックを与える、落とす、上に重いものを乗せることはしないでください。火災、故障の恐れがあります。

＊直射日光が当たった場合などは、金属部分が高温になり、火傷をする可能性がありますのでご注意ください。

＊カメラやブラケットなどは定期的に点検してください。取り付けネジの緩みや貼り付けした部分がはがれていないことを確認してください。取り付けネジの緩みがある場合は増し締めをしてください。 本機やカメラが外れて視界や運転の妨げとなり、事故の原因となることがあります。

＊本機の取り付け場所変更時は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。取り外し、取り付けには専門技術が必要です。

使用上の注意事項

＊本製品で記録したデータは、個人として利用するほかは、著作権法上権利者に無断で利用できませんのでご注意ください。

＊本製品の使用、または使用不能から生じる付随的な損害（事業利益の損失、記憶内容の変化・消失など）に関して、当社は一切の責任を負いかねます。

＊SDカードに保存されたデータの消去、破損について当社は一切の保証をいたしません。SDカードにはアンゼン録以外のデータ記録は保存しないでください。本体のシステムが正常動作しない可能性があり、破損またはデータの記録ができない場合があります。

＊別売りのSDカードなど消耗品に関しましてのトラブルは、弊社は一切の責任を負いません。消耗品のお買い上げは販売店にご依頼ください。

＊雷、津波、地震、その他自然災害、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他の異常な条件下での使用により故障及び損傷が生じた場合、または弊社が許可した者以外が分解や改造した場合、または腐食や錆などによる外観の劣化の場合、原則として有償での修理とさせていただきます。

＊ ファームウェアのアップグレードやSDカードのフォーマットの際は絶対に始動をオフまたは電源を落ちないよう注意してください。故障の原因となります。

◆ 本機について（必ずお読みください）

＊本機で記録したデータ（映像と音声）は、その使用目的や使用方法によっては、
プライバシーなどの権利を侵害する場合がありますのでご注意ください。

＊信号機がLED式の場合はLEDランプが点滅発光することもありますので、本機で
映像を記録すると信号が点滅記録する場合があります。信号が映っていない
場合は前後の映像や周辺の状況から判断してください。LED式信号機が映ら
ない件については弊社は一切責任を負いません。

＊本機の記録トリガーの一つでG-sensor(衝撃）を検知してデータを記録する機能が
ありますが、すべての状況においてデータを記録することを保証したものではありません。
場合によっては衝撃が検知できず、データが記録できないことがあります。
・衝撃が弱く、本機が検知するように設定されたG-センサの感度に満たない場合
・本機の本体が適切に固定されないで、取り付け状態に問題がある場合
・事故や水没などで本機が損傷を受けた場合

＊本製品は事故が起きた時の検証の補助として使用することもできますが、法的証拠
として効力を全て保障するものではありません。

＊本機の日時を定期的に確認してください。日時がずれている場合は、販売店に依頼
するか、指定の方法によって修正してください。GPSS受信状態によって自動補正が
出来る事もあります。GPSモジュールはオプション品です。

＊連続トリガー入力の時はシステムを安定処理するために記録時間が変動するか、
一部の記録損失が発生する場合があります。

＊記録モードを切り替えるときに記録の一部損失が発生する場合があります。

＊カメラ本体及びレンズ部分、ブラケット、カメラケーブルをアルコール・ベンジン・シンナー
ガソリン等揮発性の薬品類で拭かないでください。変形や変質、破損の原因に
なります。

＊地図の位置表示は誤差があります。始動をかけた直後・GPS受信状態が正常
ではない場所など記録当時の位置情報が必ずしも正確ではありません。
GPSが正常の受信出来たとしてもデータを記録するまでの時間がかかりますので
実際の位置と記録データが表示する場所との誤差が発生します。
地図表示の誤差については弊社は一切責任を負いません。

目　次

◆ 各部の名称及び製品構成

◆ 製品仕様

◆ 設置について

◆ 記録動作の詳細

◆ 基本動作の確認

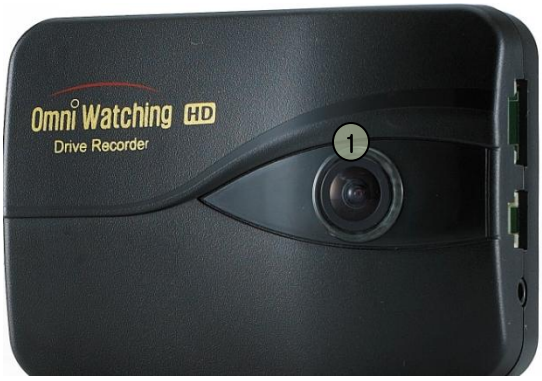
◆ ビューアープログラムの設置

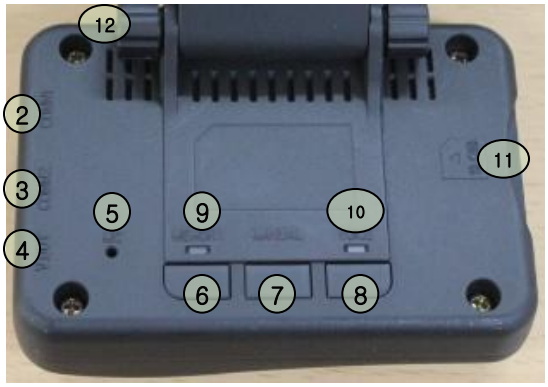
◆ ビューアープログラムの構成と機能説明

◆ 各種設定
（1）記録関連の設定
（2）システムの設定
（3）ビューアー映像画質の設定
（4）時刻の設定

◆ 報告書の出力

◆ 各部の名称(本体) 及び製品構成





各部の名称(本体)

①	レンズ	前方カメラ
②	コネクタ-1	電源または 車両信号通信ケーブルを接続
②	コネクタ-2	車内カメラを接続
④	ビデオ出力	設置時にカメラ角度を 確認するビデオ端子
⑤	マイク	音声記録用のマイク
⑥	メモリー ボタン	電源オフボタン、 時間設定時にダウンボタン
⑦	マニュアル ボタン	マニュアル記録ボタン、 時間設定ボタン
⑧	音声ボタン	音声記録ボタン(オン/オフ)、 時間設定時にアップボタン
⑨	LED(緑)	システム状態情報表示
⑩	LED(赤)	システム状態情報表示
⑪	SD カード	SDカードの挿入口
⑫	GPSジャック	GPSモジュールの ケーブルを接続

製品構成

1. 本体ユニット(ブラケット付)
2. GPSモジュール(オプション)
3. 車内カメラ(赤外線)
4. SDカード
5. 電源ケーブル
6. レンチ(ブラケット固定用)
7. ビデオケーブル(オプション)
8. マニュアル(SD収納)

◆ 製品仕様

[本体仕様] HD (1280x720p)

名称	ドライブレコーダー
型式	PAS-720HD
電源	DC 12V
消費電力	5W以下
本体カメラ	200万画素、140度
使用温度範囲	0～+60℃
使用周囲湿度	90%RH以下 （結露しないこと）
保存温度範囲	－20～+70℃
外形寸法	85 x 55 x 25 (mm)
質量	約60g
Gセンサー	X方向、Y方向、Z方向

[車内赤外線カメラ仕様] SD (720x480)

外形寸法	29 x 46 x 32 (mm)
質量	約40g
撮像素子	1/3インチ CMOSカラー
画素数	約38万画素
画角（対角）	120度
最低被写体照度	約0.1lx

[記録仕様]

記録媒体	SDカード（16GB基本、32GB 拡張可）		
音声記録	音声記録はON/OFF可能		
フレームレート	1, 5, 10, 30フレーム設定可能		
トリガー記録 ファイル数 （20秒/1ファイル）	SD容量	16GB	32GB
	Gトリガー	80	160
	手動	10	10
	Pトリガー	400	800
	写真イメージ	500	500
常時記録可能時間 （30フレーム設定時 ;画質・容量比）	最高画質	3.3時間	6.9時間
	高画質	5.3時間	11.1時間
	一般画質	11.5時間	24時間

◆ 設置について

1. 本体、車内カメラ、GPSモジュールの固定位置を確保
・安全運転に影響がない場所で、本体の手入れが便利なところ、
配線が可能な位置を想定します。
・SDメモリーカードの着脱がスムーズにできる位置。
・車内カメラは角度が十分取れる位置を選定。
・GPSモジュールは既設置のGPS機器との干渉を避けるため隣接にはおかないで
ください。側に障害物がない場所。

2. 電源を接続するポイント
・通常作動用電源としてACCとバッテリナマの電源を取ります。
・車両の取扱説明書など参考して（ヒューズボックスの中）ナマの部分を確認します。

3. 機器の準備とケーブルの接続確認
・本体を仮固定します。
・GPSモジュールは配線の長さを考慮して固定します。
GPS固定はフロントガラスにします。（アンテナの方向はテープ側が外向きです）
・SDカードは配線後、カメラ角度を決めるまでには挿入しないでください。
・車内カメラを仮固定し、ケーブルコネクタを本体に接続します。
カメラの方向は左右の中心を考慮し、両面テープで貼ります。
*電源ケーブルの赤線はACCに、黒（青）線は車両の接地、
白線はナマのバッテリ電源に接続します。
・電源コネクタを本体に挿入します。

4. アンゼン録HDシステムの作動を確認
＊設置の際はカメラの画角を確認するため、モニター（カーナビの外部入力、
映像入力ができるパソコン）を準備します。
・始動をオンにすると本体が立ち上がります。
・モニターにカメラが映る様子を見ながらカメラの上下の角度を調整します。

5. 工事の終了
＊システムの作動が確認できたら機材とケーブルを固定。
・始動をオフしてSDカードを挿入します。

＊電源の完全オフ
・ナマの電源が繋がっていますが、始動オフ状態で本体裏の「MEMORY」
ボタンを長く（3秒ぐらい）押し続きますと記録ファイルの閉め、LEDランプが
10秒ぐらいで消えて、本体には車両からの電源が切れる事になります。

＊試運転の記録映像を確認。
・電源が完全オフ状態でSDメモリーカードを取り出します。
・パソコンのビューアープログラムを立ち上げ、SDメモリーカードに記録したデータを
確認し、カメラの角度（映る様子）・車両の速度表示などが正常に記録できたことを
確認してメモリーカードを本体に取り戻します。

◆ 記録動作の詳細

*記録モードは発生する時間順でそのファイルが生成します。
*記録ファイルは制限された容量を超過するとそのフォルダの古いファイルから消しながら上書きします。

☞ 常時(NORMAL) 記録

▹ 本体に電源が入ると 赤LEDが点灯しシステムが立ちあがります（通常20秒ぐらい）。
その後緑LEDが点灯し、ブザー音がピピピなり、記録が始まります。

▹ 記録ファイルは最大1分毎に作られます。
常時記録ファイルはNormalフォルダに記憶されます。
▹ 常時記録中にトリガー（Event)が発生するとその記録モードに変わり、その記録データは該当のフォルダに記憶されます。トリガー記録が終わると自動的に常時記録に復帰します。

☞ トリガー（Event） 記録

・トリガーを連続して検知するとその区間で1ファイルとして記録します。
・トリガー記録は前10秒から、後10秒の記録ができます。

▩ 衝撃センサ(G-sensor)による 記録
▹ 設定値を超過する衝撃があるとイベント（トリガー）記録しますが、イベント記録が終わる前に再度トリガーが発生すると、そのファイルは続いて記録します。
▹ ピピピと音がして記録が始まり、20秒間記録と同時に緑色のLEDが点滅します。トリガー記録が終わると緑色のLEDは点灯状態に復帰します。
▹ Gトリガー記録ファイルはeventフォルダに記録されます。

▩ 手動(Manual REC) ボタンによる記録
▹ 常時記録中、手動ボタンによってトリガー記録します。
▹ ピピピと音がして記録が始まり、20秒間記録と同時に緑色のLEDが点滅します。トリガー記録が終わると緑色のLEDは点灯状態に復帰します。
▹ マニュアルトリガー記録ファイルはmanualフォルダに記録されます。

☞ 音声記録のオン/オフ

通常映像記録時には音声を同時記録する事ができます。場合によって音声記録を中止したい時は本体裏のVOICEボタンを1回押しますと約2秒後VOICE LEDが消灯になり、音声の記録を中止します。
再び音声を記録したい時はVOICEボタンを再度押します。
VOICE LEDが点灯して音声の記録が再開します。

☞ 写真イメージ撮影

通常記録状態でMEMORYボタンを押すとその時点のイメージがファイルになり、SDカードのsnapshotフォルダに記憶されます。前方・車内の１枚ずつ撮れます。

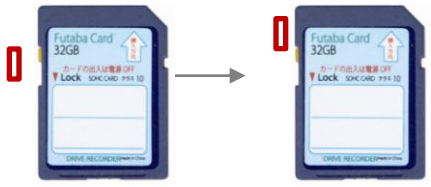
◆ 基本動作の確認

☞ 電源オン/システム起動/記録モードに移行

＊製品の機能・動作の流れを熟知して安全運行しましょう。
・始動オフ状態で設置中にはバッテリ電源が接続されてもACCがオフ状態なので本体に電源が供給できません。
・始動をオンにしてバッテリ電源・ACC電源2系通が上がった状態で本体の立ち上がりができ、その時点から記録が始まります。立ち上がりは約20秒かかります。

・完全オフ状態でSDカードの安全な取り出しができます。
・再度SDカードを挿入して、始動をオンにすると本体は立ち上がりから始まります。

☞ SDカードの確認、注意事項



SDカードのアンロック状態を確認

＊ SDカードの挿入の際は、挿入口の断面までしっかりと挿入します。
＊ SDカードを挿入口から抜くときはカードを軽く押入れ、トレイから若干飛び出させてから丁寧に取り出します。
＊ SDカードへの記録中には絶対にSDカードを抜かないでください。
SDカードが破損するだけでなく、本機が故障する恐れがあります。

＊SDカードの記録データは事故がなくても定期的に確認して、必要な部分をバックアップしておけば予想外の事態が発生したときに助かると思います。

＊ SDカードを長時間上書きしますとメモリーの割り当て・データの記録場所が細かく分けてしまいますので記録のエラーが発生する可能性があります。
従って定期的（1ヶ月に1回程度）にSDカードをフォーマットして使用することをお勧めします。

※SDカードは長時間上書きを繰り返しますと記録エラーを起こす可能性があります。
定期的にフォーマットして安定した記録を行いましょう。 正常にフォーマットができていない場合は記録エラーが発生したり、記録データが正常に再生出来ない可能性がありますので注意してください！

1. 通常 PC環境でのフォーマット方法
*SDカードを PCスロットに挿入して認識させます。
・フォーマットプログラムを開け、
・ファイルシステム ; FAT32,
・アロケーションユニットサイズ ; 64KBを選択
(allocation unit sizeで 64KBの選択が 出来ない場合は、可能な PCで行ってください。)
*ボリュームラベルを OMNI に入力して開始します。

2. 本体に SDカードを入れた状態での方法
*SDが本体に挿入された状態で始動オンします。
*本体裏のMEMORYとVOICEボタンを同時に3秒間押し続けます。
・この時フォーマット実行を知らせる音がピーピーと鳴ります。
・MEMORY LEDが暫く消灯します。
・フォーマットが完了するとMEMORY LEDが点灯し、常時記録に変わります。
*本体でフォーマットをする場合は自動的にボリュームラベルが OMNIになります。

◆ 基本動作の確認（表示および警告音）

☞ 表示 LEDランプの意味

- 本体のLEDランプ色と点灯状態によってシステム状況がわかります。
- 見方 ： [O]点灯、 [☀]点滅、 [☀ ☀]早い点滅、[X]消灯

＊運行中正常記録時の表示

条件	ブザー	全面ランプ	Memory LED（緑色）	Voice LED（赤色）	
				音声記録オン	音声記録オフ
立ち上がり	ピピピ	O→X	O（約20秒）	O	
常時記録	-	-	O	O	X
Event 記録	ピピピ	-	☀☀	O	X
SD無、ロック状態	ピピ	X	O	☀	
アップグレード	-	O	X	O（完了後再スタート）	
SDフォーマット	ピ	X	X	O	
SDフォーマット完了	ピピ	X	O	O（フォーマット完了後記録スタート）	

＊本体ボタンの動作

本体ボタン	短く押す	長く押す（3秒）
MEMORY	写真撮影	-
MANUAL	EVENT記録	-
VOICE	音声ON/OFF	ブザーON/OFF
MEMORY+VOICE同時	-	SDカードフォーマット

◆ ビューアープログラムの設置

＊ コンピュータシステム要件（ビューアーの動作環境）

対応OS	Microsoft Windows XP/VISTA/Windows7
CPU	Intel Pentium 4 CPU 1.3GHz以上
メモリ	1GB以上（推奨）
HDD	ソフトウエアのインストールには約20MB以上必要、 ファイルの保存にはファイルサイズに対応する空き容量が必要
CDドライブ	ソフトウエアインストールに必要、ファイルのバックアップには 書き込みソフトとCD-Rドライブ等が必要
ディスプレイ	1024x768ピクセル以上/32bit Colorが再生可能なこと
その他	SDメモリカードの読み書きができるインターペースがあること

*Microsoft, Windowsは米国Microsoft社の社名及び登録商標です。
*Intel, Pentiumは米国Intel社の社名及び登録商標です。

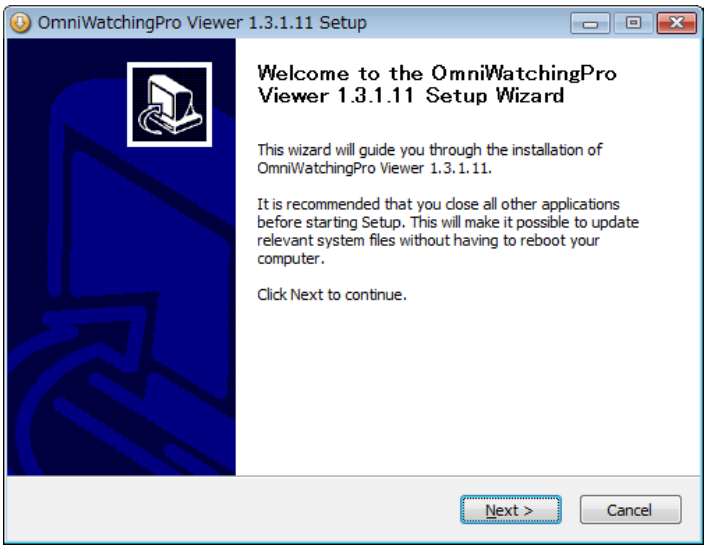
◆ ビューアープログラムの設置

◇ ビューアープログラムのセットアップ

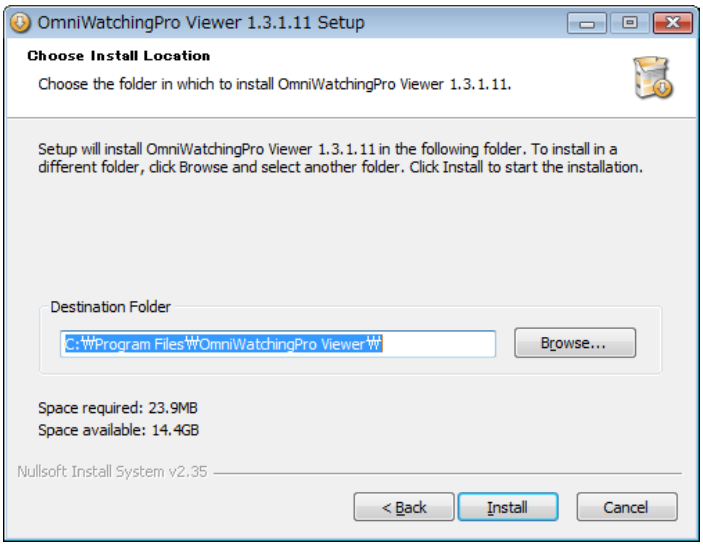
ビューアーソフトはSDカードに入れた状態で提供します。

①SDカードにあるファイル； Omniwatching Viewer.exeを
パソコンにコピしておきます。
② Omniwatching Viewer.exeファイルをクリックしてビューアーを設置します。

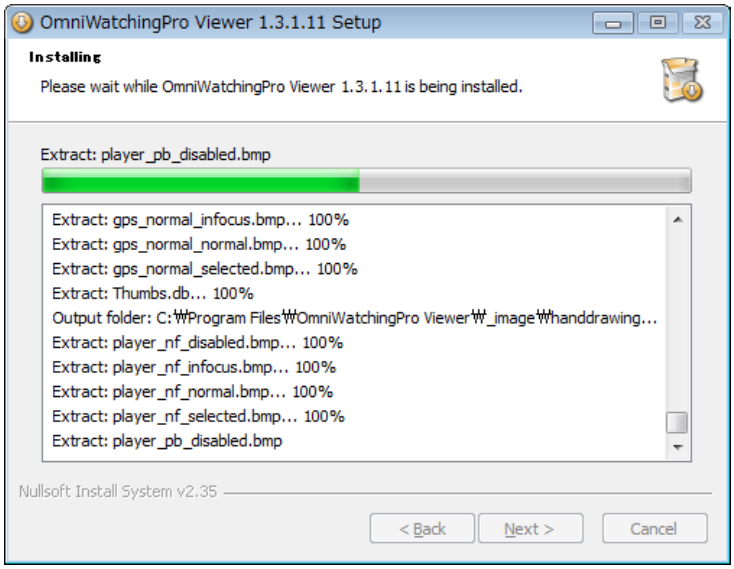
＊パソコンの環境設定条件によっては、UACの設定を確認して進行する事もあります。



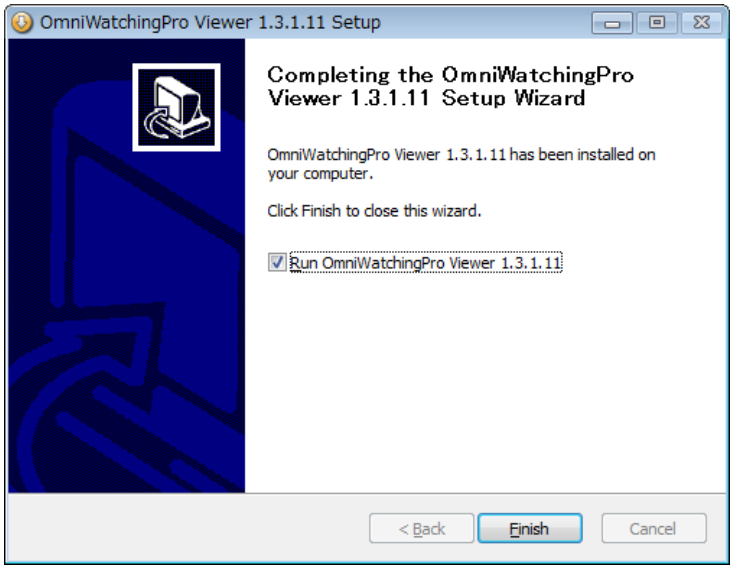
Setup (version).exe ファイルをクリックすると設置が始まります。



ビューアーのプログラムを設置するフォルダを指定します。指定がない場合は左のように自動に設置されます。



設置中の画面



設置完了 ； 終了アイコンをクリックします。

＊SDカードに入っているビューアーソフトは大容量なのでパソコンにコピし、
SDカードからは削除して本体の記録用として使います。

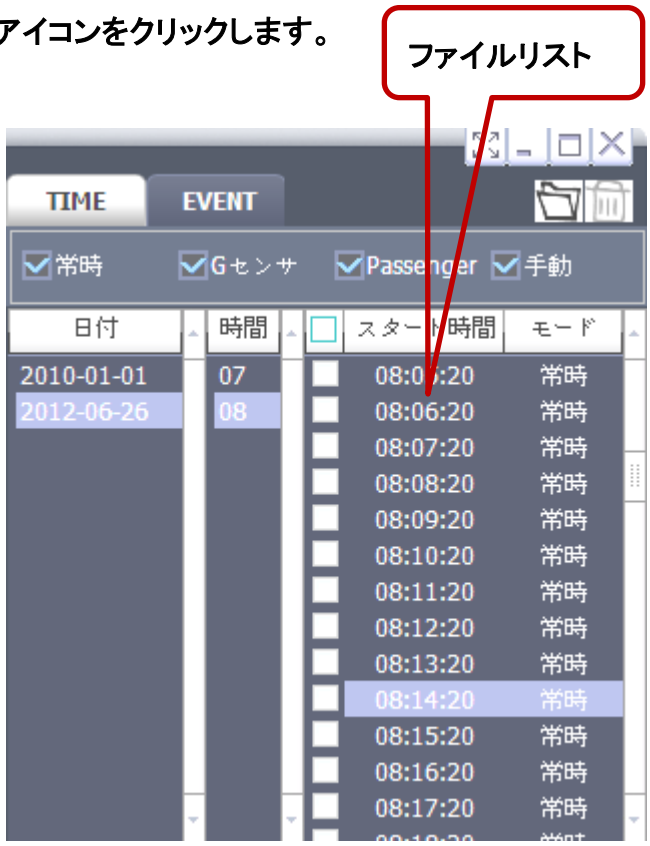
◆ ビューアープログラムの構成と機能説明

設置完了後の初期画面

記録ファイルを開いた再生画面

◇ビューアー画面の構成と機能説明（つづく）

▶ ファイル呼び出し;ビューアーの[OPEN]アイコンをクリックします。



- 記録データがあるSDカードがパソコンに挿入されるときは上のようにポップされます。
- 別のフォルダからデータを呼び出す時にはそのフォルダを指定して確認アイコンをクリックします。

▶ ファイル選択 ； ファイルリストの中で再生したいファイルにカーソルを置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックするとそのファイルが再生を始めます。
*注意;ファイルリストの□チェック欄はファイルをバックアップ時に指定する場所で、再生時にはこの部分がチェックされても無視します。

▶ 再生方法;
・連続再生;ファイルリストの特定ファイルを選択して再生をすると、そのファイルリストの日時/時間別の最後のファイルまで連続して再生し、終了します。
・選択再生;再生したいファイルにカーソルの置いてマウスの左ボタンをダブルクリックするとそのファイルが再生できます。
・特定支点の再生;現在再生中のファイルの中で、再生進行バーの特定位置をクリックするとその部分から再生ができます。

◇ビューアー画面の構成と機能説明（つづく）

▶ 再生画面の拡大

・CH1画面の拡大;再生中にCH1の映像の上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックすると、ビューアー全体サイズにCH1の映像が表示され、この状態で再びマウスの左ボタンをダブルクリックすると本来の画面サイズに復帰します。

・CH2の映像がある場合、同じくCH2の映像の上にカーソルを置いて、マウスの左ボタンをダブルクリックすると画面が拡大・復帰されます。

基本画面

ズーム拡大画面

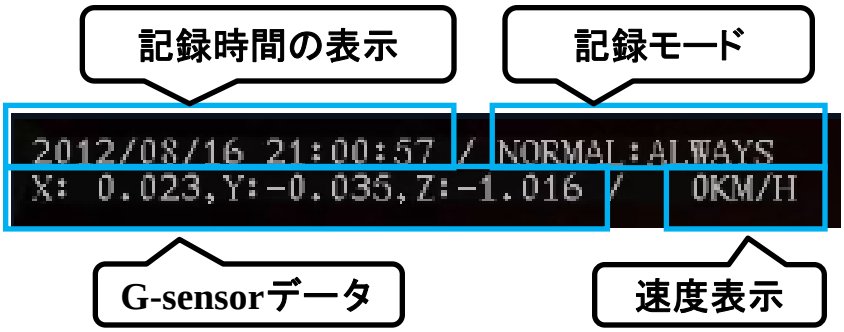
▶ ズーム再生

・再生中の画面で、画面上の拡大を希望する部分にカーソルを置いて、パソコンのキーボードのctrl keyを押しながらマウスのスクロールを前進するとカーソルがある位置を中心に画面が拡大、スクロールを後進すると画面が縮小されます。

・ズームの再生状態を解除するときはctrl keyを押しながらマウスの左ボタンをダブルクリックします。

◇ビューアー画面の構成と機能説明（つづく）

[1] record information ; データの記録情報を表示

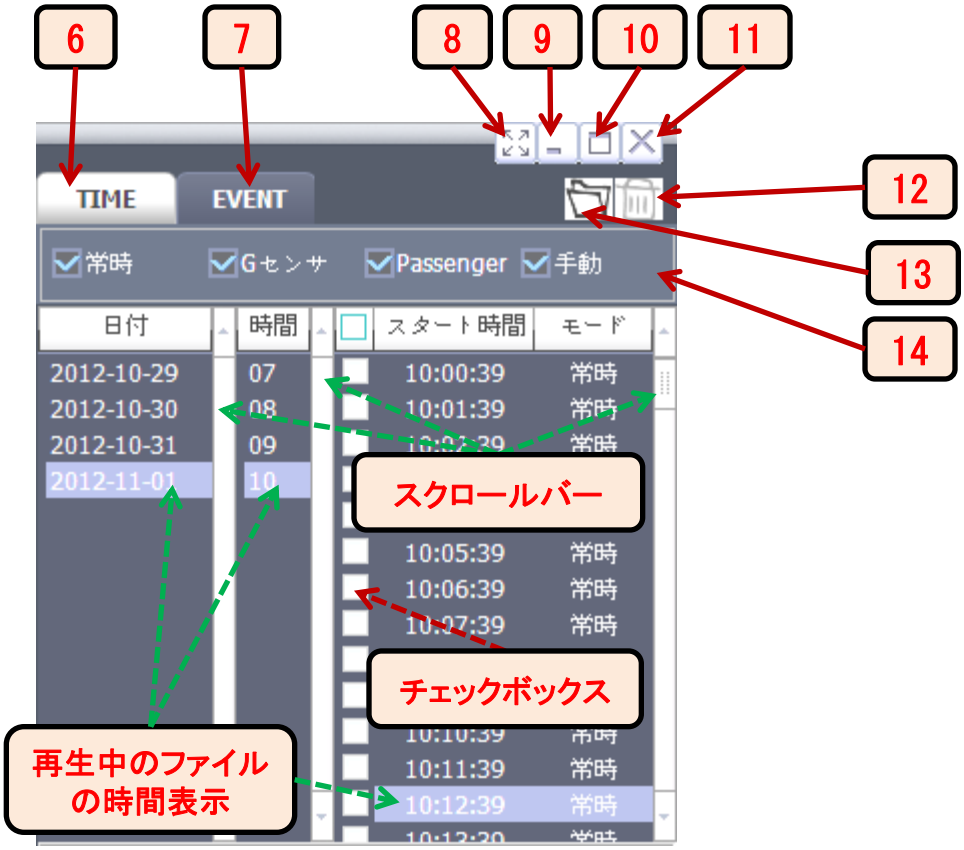


[2] CH1 表示画面 ; CH1の映像が表示されます。
[3] play bar ; 現在再生中のファイルサイズの中で再生支点の表示

[4] record time ; データの記録時刻を表示

[5] CH2表示画面 ； CH2の映像が表示されます。

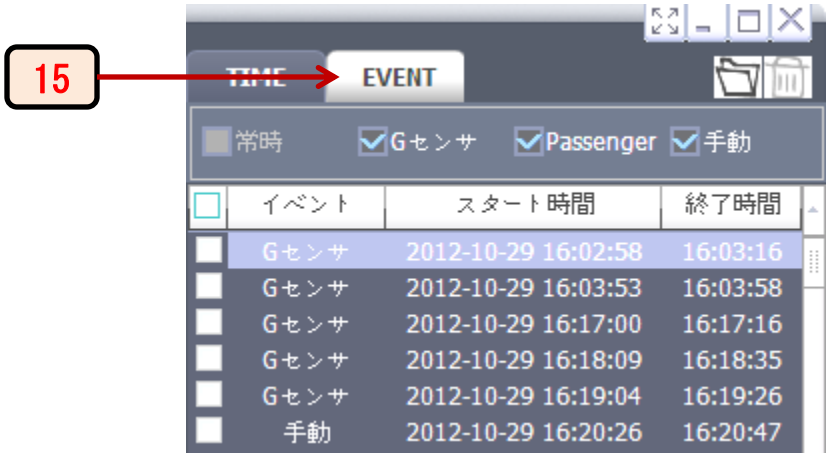
◇ビューアー画面の構成と機能説明（つづく）



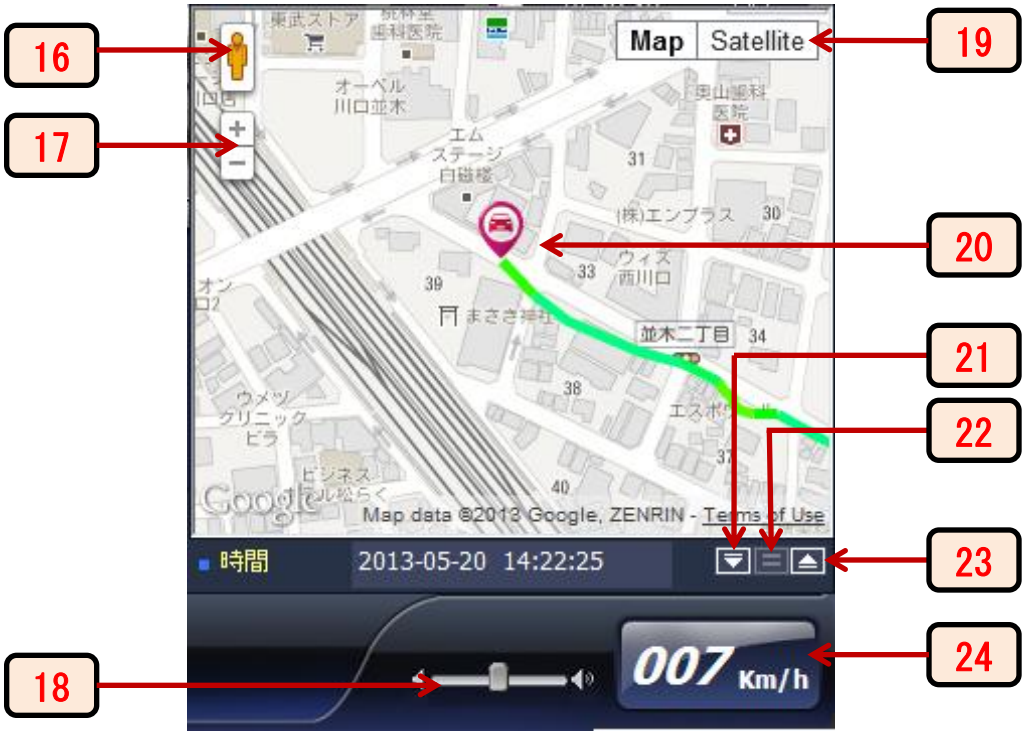
[6] TIME；記録データの映像ファイルを時間ごとに表示
[7] EVENT；記録データの中でEVENTファルダにあるファイルのみファイルリストに表示
[8] Full screen；全画面表示機能
・ビューアー再生画面をモニターの最大サイズまで拡大表示するアイコン
・本来のビューアー画面に復帰させる時はマウスのカーソルを画面の上端部まで動かすと、ツールバーが現れますので復帰アイコンをクリックして通常の画面に切り替えます。
[9] ビューアーの隠し
・このアイコンをクリックするとモニター画面からビューアーが消えます。
・モニター下段部のツールバーの[Omni Viewer]をクリックして通常画面の戻します。
[10] ビューアー画面の拡大、復帰
・通常のビューアー画面サイズ状態でこのアイコンをクリックするとモニター画面全体にビューアー画面が拡大されます。また拡大状態でこのアイコンをクリックすると本来のビューアー状態に復帰します。
[11] EXIT；ビューアーの終了
・クリックするとビューアーが終了します。
[12]ファイルの削除
・削除するファイルを選び、チェック欄をマウスの左ボタンでクリックして指定した後、削除アイコンをクリックするとそのファイルが削除されます。
・重要な記録データが消えないように慎重に選んで処理してください。

◇ビューアー画面の構成と機能説明（つづく）

[13]　OPEN；ファイルを呼び出すアイコン
・SDカードまたは記録データが保存された記憶装置から再生したいファイルを呼び出す時にこのアイコンをクリックします。
[14]　ファイルリスト整理アイコン
・フォルダごとに選択してファイルリストを呼び出す時に、こちらのチェックボックスをチェックします。



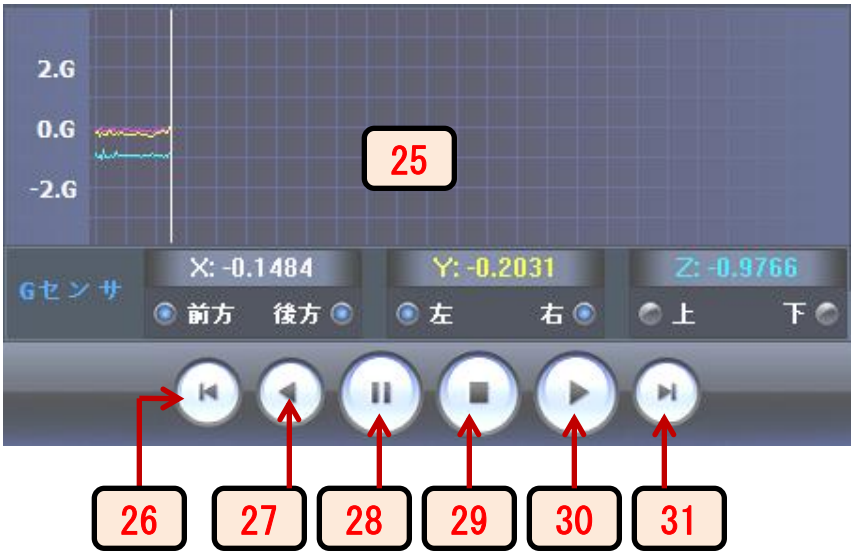
[15] EVENT；記録データの中でEVENTデータをファイルリストに表示します。



＊グーグルマップはビューアー設置パソコンがインターネットに繋がっているときに表示できます。

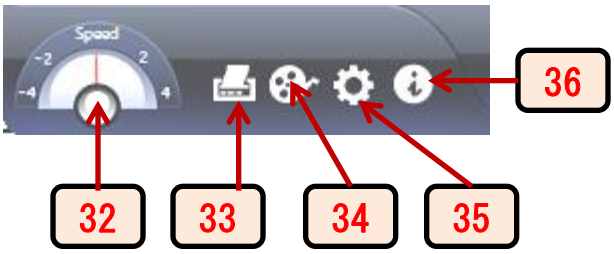
◇ビューアー画面の構成と機能説明（つづく）

[16] ストリートビュー ； 現在表示中の地図上でストリートビューのデータが存在する場合、その画面に転換して表示することができます。
[17] Map zoom in/out ; 表示された地図の縮尺を変更するアイコン
[18] Volume bar ; 音量の調節 (再生時の音声の大きさを調節)
[19] 地図表示画面 ； Google mapで車両の走行位置を表示します。
・記録当時の位置が地図上に経路が表示されます。
・表示手段は地図と衛星写真を選択することができます。
[20] 車両の運行経路表示 ； 記録時の位置を地図上の表示
[21] ファイルリストの画面拡大 ； 地図表示部分までファイルリストが拡大表示されます。
[22] 基準画面へ復帰するアイコン ； ファイルリストと地図表示の分割画面に戻ります。
[23] 地図表示拡大アイコン ； ファイルリスト画面まで地図表示が拡大されます。
[24] Speed ; 走行車両の速度(GPS信号を変換して表示)

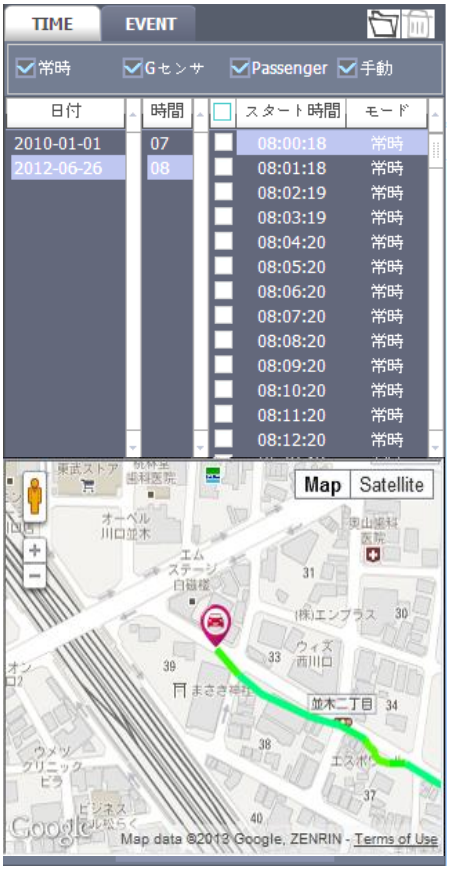


[25] G-sensor グラフ ； 運行中に記録された衝撃程度をグラフで表示
[26] frame reverse ; 再生中の映像を1フレームずつ逆方向に再生
[27] reverse play ; 逆再生
[28] still ; 一時停止ボタン
[29] stop ; 停止ボタン
[30] play ; 再生ボタン
[31] frame advance ; 再生中の映像を 1フレームずつ順次再生します。

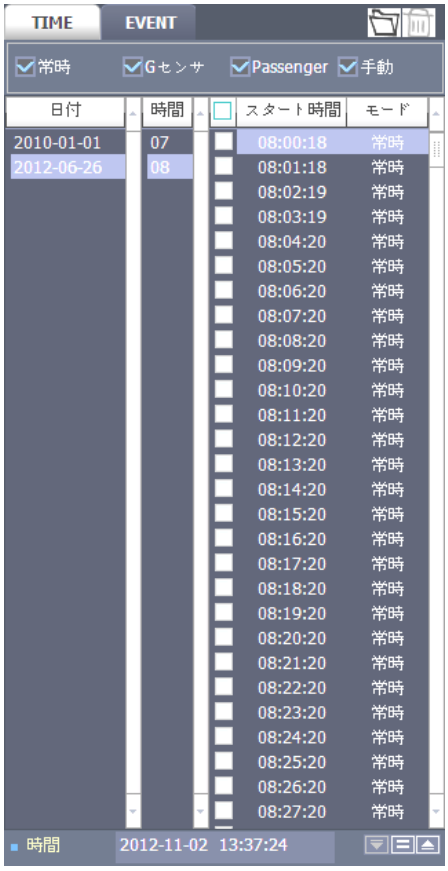
◇ビューアー画面の構成と機能説明（つづく）



[32] 記録映像の再生速度を変更するアイコン
[33] Report；再生中に特定画面を一時停止して、その支点の記録データを報告書型式で出力する事が出来ます。
[34] ファイル保存　；　特定ファイルを変換してバックアップするときに使用する。変換されたファイルを保存する位置（フォルダ）を設定します。
[35] 設定アイコン　；記録方法などを設定する機能
[36]ビューアー設定　；　CH1画面のみ表示するか、またはCH1+CH2同時に表示するかを設定できます。



基本画面　（ファイル+地図）



ファイルリスト開き画面

地図開き画面

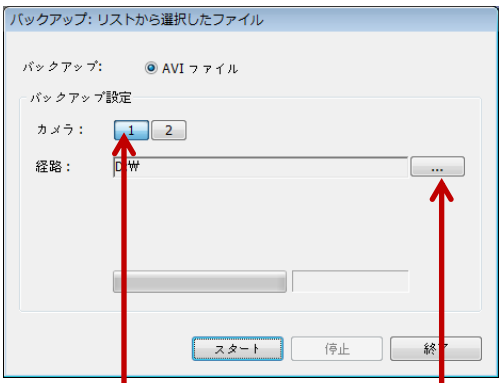
◇ファイルのバックアップ方法

1）ファイルチェックボックスにバックアップするファイルを選択します。

2）ファイルバックアップアイコンをクリックします

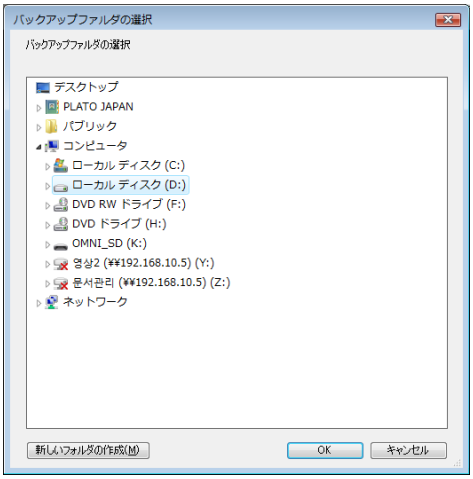
3）バックアップするCHを選択します。
CH1、CH2、CH1+CH2が可能です。

4） バックアップするファルダを作り、経路を指定して、スタートアイコンをクリックすると指定のファイルが指定のファルダに保存されます。



バックアップフォルダを指定

CH1, CH2選択アイコン



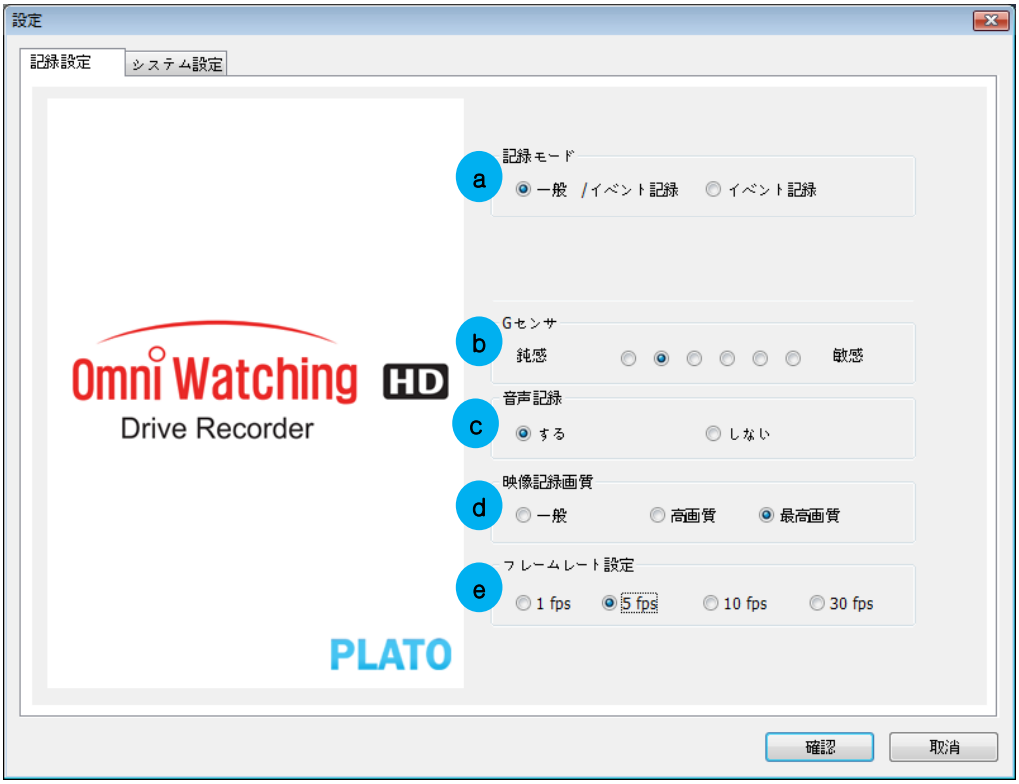
＊原本記録データの保存；
SDカードに記録された原本データを保存する際は、別途の大容量記憶装置を準備して適切なフォルダを作ってSDカードのデータをコピして保存します。

◆ 各種設定

(1) 記録関連の設定

設定アイコン

ビューアー画面の設定アイコンをクリックすると下記の設定画面がポップします。

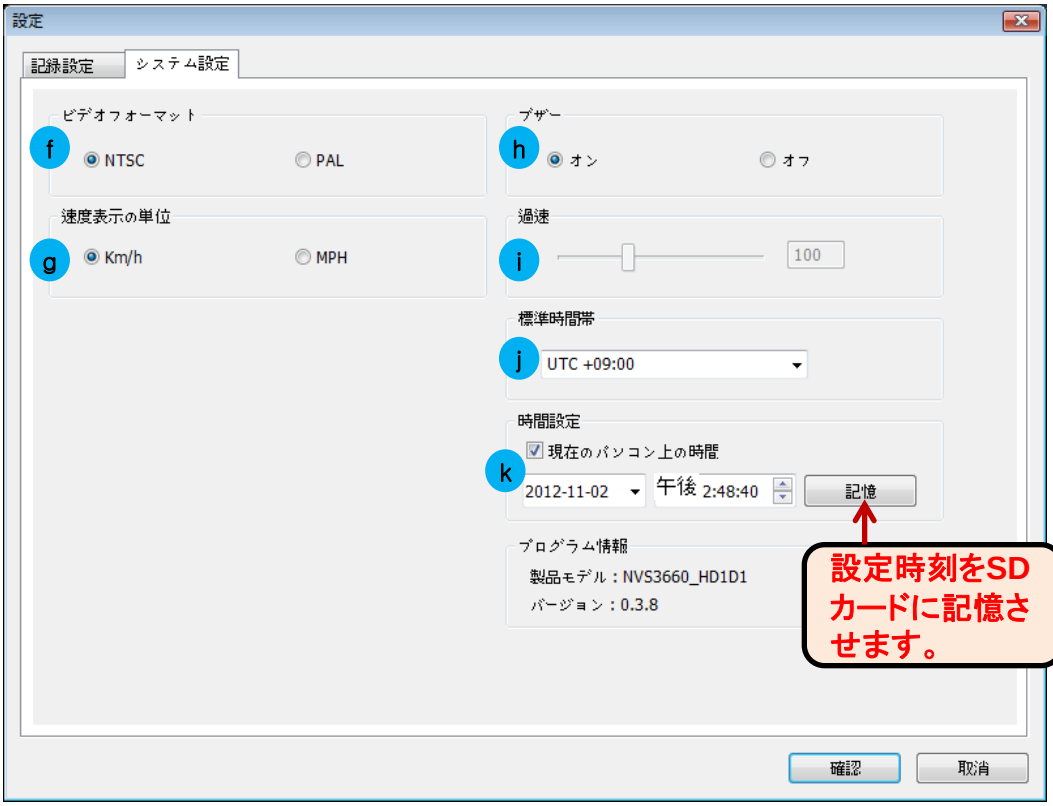


ⓐ 記録パターンを設定します。
・常時記録とイベントを同時に記録する場合; 一般/イベント記録
・常時記録はしなく、イベントのみ記録する場合;イベント記録
ⓑ G-sensorの感度を設定します。
・左側にすると鈍く、右側にすると敏感に反応します。
Ⓒ音声の記録を選択します。(音声の記録オン/オフは本体裏のボタンでも可能です)
ⓓ記録映像の画質を設定します。
・一般 ; 普通の画質、高画質;Good、最高画質Very Good ; HD画質
ⓔ記録フレームの設定
・1、5、10、30のコマ数が選択できます。

※イベント記録はファイル数の制限がありますので、設定された感度の記録映像を見て設定値を適切に選択するようお勧めします。

◆ 各種設定（つづく）

（2） システムの設定



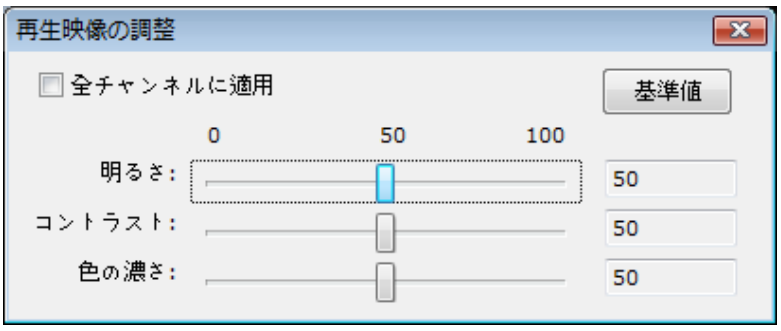
ⓕ 映像記録フォーマットを設定します。日本は「NTSC」です。
ⓖ 車速の単位を設定します。一般的には「Km/h」で表示されます。
ⓗ 本体のブザー音がなるかならないかの選択
ⓘ この機能は使いません。
ⓙ 国の基準時刻（標準時差）を設定します。
・日本は9時間早いので+09:00を設定します。
・誤差はGPS信号が正常受信できる場合のみ自動補正します。
Ⓚ GPS受信ができない地域はマニュアルで時間を設定します。
マニュアルで時間設定をする際はパソコン上の設定後、車両まで移動距離を念頭にいれ、SDカードを本体に差し込んでから始動オンするまでの時間を想定して行ってください。

※設定値の本体へのアップデート；ビューアー画面を開き SDカードが認識された状態で各項目の設定値を指定してから [OK]ボタンをクリックすると、SDカードに configファイルが生成されます。
SDカードを本体に挿入して始動オンにすると自動的にアップデートします。

(3) ビューアー映像画質の設定

*ビューアー再生時に映像画面の表示状態を設定する事ができます。

1. CH1または CH2の映像が表示される画面の上にカーソルを置いて、マウスの右ボタンをクリックすると画面表示状態を選択するポップが現れます。
2. 「再生画面の切り替え」; CH1と CH2の表示位置を交替する事ができます。
3. 「画面縦横比率」; 映像画面の縦横比率を選択する機能、16:9または 4:3
4. 「ズーム」 ; ズーム再生後に本来の画面状態に戻ります。
5. 「ーチャンネル再生」; 主映像画面がビューアーの全体サイズまで拡大して表示され、再度クリックすると元の通り復帰します。



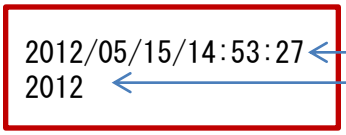
6. 再生映像の調整 ; 再生画面の表示状態を可変する機能
   - 明るさ/コントラスト/色の濃さが変更できます。
     各バーにカーソルを置いてマウスの左ボタン押したまま、カーソルを動かして設定値を変更することができます。
   - Default基準値から多く離れると画面が明瞭に表示されない可能性がありますので設定時に注意してください。
   - 「基準値」のアイコンを選択すると初期状態に復帰します。

(4) 時刻の設定

＊時刻の設定は車両に設置したまま、モニターがあれば現場でも可能です。
＊時刻の誤差が発生した場合は手動での補正が可能です。
通常GPS信号が正常受信できる地域ではGPS信号によって自動的に時刻補正が行われますので手動補正が要りません。

1. 準備 ;
・電源がオフ状態でSDメモリを本体から抜き出して, ロック状態にして再度挿入しておきます。
・本体のAV ジャック端子にケーブルを繋げ、カメラの映像を確認できるようにモニターを準備します。カーナビの外部入力端子に挿入するかパソコンなどの別途モニターが必要！

2. 時刻設定モードへの進入 ;SDロック状態のまま
・始動をオンにして電源が供給できますと本体は立ち上がりして、カメラの映像がモニターに現れます。
・本体のMANUALボタンを3秒間押し続けると時刻設定の為のカーソルが変わります。



現在の時間表示
設定部分が変わります。(年度→月→日→時→分→秒順)

・設定中にはVOICE LEDが点滅します。

3. 設定位置の選択 ;
・設定変更をする部分がMANUALボタンで選択できます。
・MANUALボタンを1回押すことに年・月・日・時・分・秒の順で位置が変わります。
・「秒」の位置で設定変更が完了するともう一度MANUALボタンを押して、その時点から設定の時間がスタートして作動します。

4. 設定値の変更 ;
・選択された位置で、MEMORYボタンを押す毎に、数字が1ずつ減ります。
・VOICEボタンを押す毎に、数字が1ずつ増加します。

5. 再設定 ; 設定ミスがあった場合は2番から4番までの手順を繰り返し設定します。

6. 設定終了 ; 設定が終わると電源をオフし、SDメモリのロックを解除して本体に取り戻し、通常運行します。

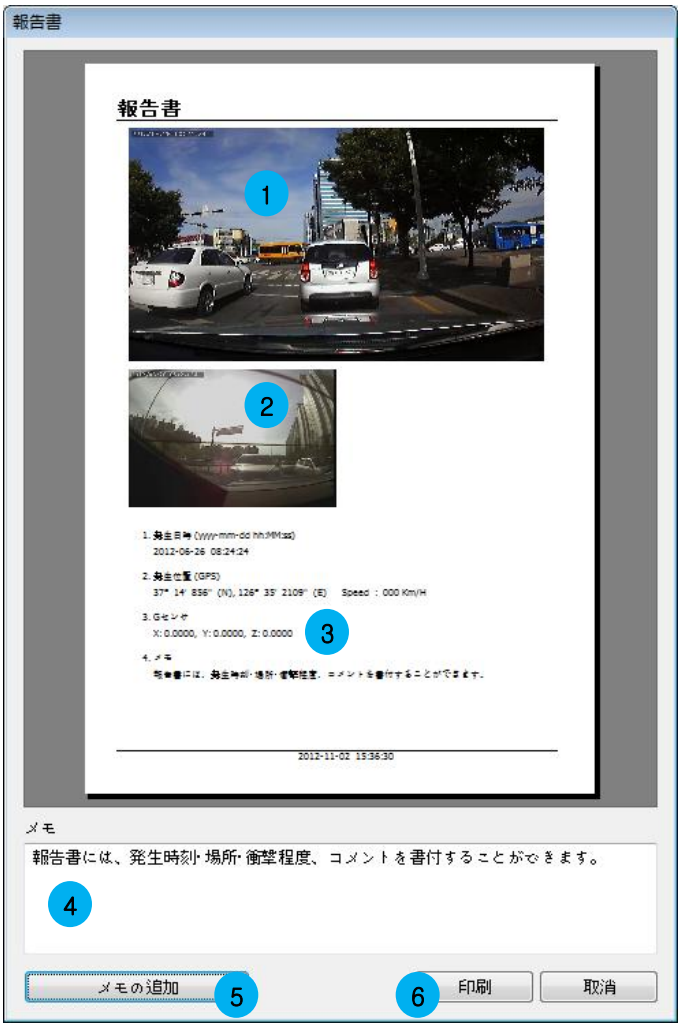
◆ 報告書の出力

・再生または一時停止中にビューアー画面の[33]番アイコンをクリックすると報告書のポップが現れます。

・報告書の内容は、

① CH1画面の映像イメージ
② CH2画面の映像イメージ
③ 記録データ
　・記録当時の時刻
　・記録場所;経度・緯度の表示
　・速度
　・Gセンサのデータ

④ 報告内容の入力欄
　・指定の空間に報告内容のコメントを入力する事ができます。
⑤ 4番の欄に入力が終わると5番をクリックして内容を確定します。
⑥ 準備ができたら6番の印刷ボタンをクリックして保存または印刷します。



※印刷はビューアーがインストールされて、運用中のパソコンで使用可能なプリンターが接続してあるときに出力が可能です。

製品保証書

保証書は、お買い求めの際、販売店で所定事項を記入いたしますので、記入および記載事項をご確認の上、大切に保管してください。なお、保証書は再発行いたしませんので、ご注意ください。

＊保証の範囲

1. 取扱説明書に記載された正常な状態で、保証期間中に万一故障が発生した場合は、無償にて修理いたします。お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。
2. この保証は保証書に記載された製品について日本国内に限り適用いたします。
   This warranty is valid for Japan.

＊保証の条件

次に該当する故障は、保証期間中であっても実費にて修理を申し受けることがあります。

1. あやまった取り扱い、不当な修理・改造を受けた製品の故障、また故意・不注意による破傷に起因する故障。
2. 災害など不可抗力による破傷。
3. 本書に必要事項の記入が無い場合、または本書の提示が無い場合。

お買い上げ日		年　　月　　日
保証期間		お買い上げより1年間
お客様	ご住所	〒　　TEL.
	ご氏名	様
お買い上げ店	住所	〒　　TEL.
	店名	